

国語科学習指導案

庄原市立東城小学校
教諭 香川 和彦

- 1 日 時 平成20年3月3日(月)～平成20年3月7日(金)
- 2 場 所 第3学年1組教室
- 3 学 年 第3学年
- 4 単元名・教材名 筆者の考えや述べ方に気をつけて・「体を守る仕組み」(光村図書 四年下 平成4)
- 5 研修テーマ 「読むこと」において自分の考えをもつ力を高める国語科学習指導の工夫
— 説明的な文章における「評価読み」の学習を通して —

6 研修テーマと本単元とのかかわり

本研修では、児童の「自分の考えをもつ力を高める」ための有効な指導方法の一つとして「評価読み」を取り上げ、授業改善を進めてきた。

「評価読み」とは、筆者の主張やそれを伝えるための論理に着目し、その良さや問題点について吟味・評価する読み方である。

研修の中では、「自分の考えをもつ力を高める」授業とはどのようなものか、「評価読み」の特長は何か、それを授業の中でどのように活かすかを考えてきた。

「評価読み」の特長	本単元の工夫点
- 教材だけを意識して読む姿勢から、書き手である筆者の存在を意識して、筆者を通して教材を読む姿勢に、児童を変容させる。 - 読み手である児童の多様な考えを抑えず、幅広いものにする。	① 書き手である筆者の存在を意識して教材を読ませる発問を工夫する。 ② 授業の始めと終わりに評価の活動(自分の考えをもつ)を入れ、展開を工夫する。 ③ 共感・疑問・批判など多様な考えをもち、交流させる中で、その違いに気づき、自分の考えを深めさせる場を設定する。

「評価読み」の特長を基に、本単元では①～③の工夫を考え、授業を行うことにより、児童を次のような姿に育てたいと考えている。

- 書かれていることがら(事実)に対する感想や意見だけでなく、表現や論の展開など筆者の述べ方に目を向けながら自分の立場から感想や意見をもつ児童。
- 共感・疑問・批判など多様な考えをもち、主体的に読む児童。

7 単元について

○単元観

学習指導要領において、中学年の「C読むこと」の指導事項(エ)に「読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」とある。

本単元では、読み取った内容について自分の考えをもつことと、考えを交流し合い、友達の考えと比べることを通して、その違いに気付くことをねらいとしている。

本教材「体を守る仕組み」は、病気の原因になる微生物から、自分を守るために絶えず働き続けている体の仕組みについて説明した内容である。本教材が、自分の考えをもつ力を高めることに適した教材であると考えた理由は、二点ある。一点目は、文章構成がはっきりしており、内容をつかみやすいことである。読者の不安を煽り、読み手を引き付け、話題提示をしている序論や、体を守る仕組みについて具体を挙げ説明している本論、筆者の考えを述べた結論というそれぞれの役割が明快である。また、題名に関する語句や繰り返し語句などに着目させることで、中心語句や中心文をつかませやすいという特長がある。内容をしっかりとらえた上で、筆者の考えや述べ方について、自分の考えをもたせることができると考えた。二点目は、表現や論の展開の工夫が随所に見られることである。呼びかけや比喻などの表現の意味や効果

について考えさせたり、序論・本論・結論の関連を確かめさせたりする中で、筆者の考えや述べ方の工夫に気付かせ、自分の考えをもたせる活動を多く設定することができる教材である。

○児童観

自分の考えをもつ力については、読み取ったことがらや表現についての感想にとどまり、論の展開に対して、自分の考えをもつことは十分にできていない。

考えを交流し合い、一人一人の感じ方の違いに気付く力については、考えを発表することにとどまり、叙述を基にそれを深め合うところまでには至っていない。

○指導観

指導にあたっては、本単元のねらいの達成に向けて、筆者の主張やそれを伝えるための論理に着目し、その良さや問題点について吟味・評価しながら読む「評価読み」を取り入れる。そこで、次の四点を工夫して指導を行う。

一点目は、書き手である筆者の存在を意識して教材を読ませる発問を工夫することである。筆者がどのようなことがらを選び、どのような表現や論の展開を用いて伝えたいことを説明しているかを児童に問うことで、筆者の考えや述べ方に目を向けた意見や感想をもたせるようにする。

二点目は、授業の始めと終わりに、評価の活動を入れることである。まず、授業の始めに筆者の考えや述べ方に対して自分なりの考えをもたせる。そして、叙述に即して読み取らせるとともに、自分の考えを確かめさせながら、授業を展開していく。そして最後に、もう一度自分の考えをまとめさせる。多様な考えをもたせるとともに、それを基に主体的に読む姿を保障していきたい。

三点目は、叙述を基に自分の考えを深めさせる場を設定することである。そこでは、友達の考えを自分の考えと比較し聞かせ、同じところや違うところを意識させる。一人の児童の発言が他の児童の発言へつながり、それらが次々に絡み合い学級全体へ広がっていくよう話し合いを進めていきたい。このように進めることで、児童がさまざまな考えに触れ、その都度、叙述に即しながら自分の考えを見つめ直すことにより、自分の読みや考えを深めていくことができるようになる。

四点目は、単元末に「評価読み」で別教材を読ませることである。ここでは、筆者の考えや述べ方に気を付けながら進んで読むことができるようになっていくかどうかを評価する。ことがらに対する関心や評価だけでなく、筆者の考えや述べ方についての意識の高まりも評価していきたい。

8 単元の目標

- 体を守る仕組みに興味をもち、筆者の考えや述べ方を意識しながら、主体的に読もうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。
(C読むこと エ)
- 文章全体における段落の役割を理解する。(言語事項(1)オ(イ))

9 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 体を守る仕組みに興味をもち、筆者の考えや述べ方を意識しながら、進んで読もうとしている。	① 読み取った内容について、自分の考えをまとめている。 ② 読み取った内容に対して、自分と友達との感じ方の違いについて気付いている。	① 文章全体を組み立てるための段落の役割を理解している。

10 指導と評価の計画(全6時間)

次	学習内容	評価				
		関意	読む	言語	評価規準	評価方法
1	- 題名読みをする。 - 本文を通読する。 - 納得や疑問などの書き込みを行う。 (1/6)	○			題名から本文の内容を予想し、体の仕組みに興味をもって進んで読んでいる。 (関①)	発言 教科書(コピー) ノート

	・ 話題提示文や事例の段落を手がかりに、序論・本論（その１，その２）・結論に分ける。 ・ 結論（⑫段落）を読み，読みの構えをもつ。（２／６）			○	・ 話題提示文を基に，文章全体の構造を把握している。（言①）	発言 教科書（コピー） ノート
2	・ 私たちの体と病気の原因となる微生物との関係について読み取る。（序論：①～④段落） ・ 筆者の考えや述べ方について，自分の考えをもつ。（３／６）		○		・ 筆者の考えや述べ方について，自分の考えをまとめている。（読①）	発言 ノート
	・ 微生物を体に入れないための仕組みについて読み取る。（本論その１：④～⑧段落） ・ 筆者の考えや述べ方について，自分の考えをもつ。（４／６）		○		・ 筆者の考えや述べ方について，自分の考えをまとめている。（読①）	発言 ノート
	・ 体の中で微生物と戦う仕組みについて読み取る。（本論その２：⑨～⑪段落） ・ 筆者の考えや述べ方について，自分の考えをもつ。（５／６）【本時】		○		・ 筆者の考えや述べ方について，自分の考えをまとめている。（読①） ・ 自分と友達の考えの違いを見付けている。（読②）	発言 教科書（コピー） ノート
3	・ 段落相互の関係を読み取る。 ・ 「とんぼのひみつ」を読み，筆者の考えや述べ方について，自分の考えをもつ。（６／６）	○			・ 筆者の考えや述べ方に気を付けながら，進んで読もうとしている。（関①）	発言 ノート

11 本時の展開

(1) 本時の目標

- 筆者の考えや述べ方について、自分の考えをまとめる。
- 自分と友達の考えの違いを見付け、感じ方の違いに気付く。

(2) 観点別評価規準

- 叙述を根拠にしながら、筆者の考えや述べ方について、自分の考えをノートに書いている。
- 自分と友達の考えの違いを比べながら、自分の考えを話したり書いたりしている。

(3) 準備物

挿絵（掲示用） ④段落・⑨段落の本文（掲示用）

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 前時の学習を想起する。 ・ 話題提示 ・ 体の中に微生物を入れない仕組み 2 学習課題を確認する。 本論その2に書かれた微生物と戦う体の中の仕組みを読み取り、のべ方のひみつを見つけ、自分の考えをもとう。 3 本論その2を読み、自分の考えをもつ。 ○ 体の中にある微生物と戦う仕組みをすばらしいと考えているのはだれですか。 ・ 中村さん ○ あなたはこれを読み、この仕組みがすばらしい仕組みであるということが伝わってきますか。伝わってきませんか。 ・ 伝わってくる ・ 伝わってこない ○ この文章のどのようなところからすばらしい仕組みであるということが伝わってきますか。それが分かるところに線（赤）を引きましょう。 ○ もう少し説明があるとよいところやよく分からないところには、線（青）を引きましょう。 4 自分の考えを交流し合い、微生物と戦う体の中の仕組みについて読み取る。 ⑩微生物がふえて、毒を出し始めると、 まず、 小さな白血球…微生物を食べ始める。 ↓ 食べつくせないときには、 今度は、 大きな白血球…微生物をつかまえる。 ⑪この白血球…助けを求める。 ↓ 新しい白血球がどんどん作られる。 同時に、 ⑪（高い熱）…微生物の活動を弱める。 体の中の戦いがかなりきびしいとき	・ ことがらだけでなく、筆者の述べ方についても目を向けさせ、意識付ける。 ・ ⑧段落の最後の文を音読する。 ・ ⑨段落と④段落の話題提示文を比較させ、その違いに気付かせる。 ・ 読む段落(⑨～⑪・⑫結論)を確認させ、音読させる。 ・ すばらしいということが伝わってくるかどうか考えながら音読させる。 ・ 筆者の考えに対する自分の考えを書かせ、評価の姿勢をもたせる。 ・ 伝わってくる、伝わってこないのどちらの考えも尊重する。同時に、その根拠について叙述を基に考えさせる。 ・ 児童の発言を受けながら、以下のことをおさえ、板書する。必要に応じて問い返し、正しく読み取らせるとともに、述べ方にも着目させる。また、児童の発言をつないでいく。 ・ 体の器官 ・ 役目（擬人化） ・ 繰り返し語句 ・ 状況を表す言葉 ・ 順序を表す言葉 ・ 指示語 ・ 話し合いの状況を見ながら、必要に応じて、着目させたい表現を指摘したり、⑨段落と④段落の述べ方を比較させたりしながら、考	自分と友達の考えの違いを比べながら、自分の考えを話したり書いたりしている。 (発言・ノート)

5 読み取った内容を基に、自分の考えをまとめ、交流する。 ○ 今日学習したことを振り返りながら、中村さんが書いた体の中の仕組みを説明した文章について、考えたことを書きましょう。 【「私はこの文章を読んで、…と思いました。それは、中村さんが～のように書いているからです。」】 ・ それぞれがかかわり合いながら働いているのがすばらしいと思いました。なぜかという、中村さんが「まず」「今度は」「同時に」という言葉で関わりあっている様子が分かるように書いてくれているからです。 ・ 白血球の働きはすばらしいと思いました。なぜかという、中村さんが「食べ始める」「つかまえる」「助けを求める」という擬人化した言葉で戦っていることがよくわかるように書いてくれているからです。 ・ 中村さんがすばらしい仕組みだということを伝えたいのがよく分かりました。なぜかという、まとめの⑫段落にこれらの仕組みについて「たえず自分を守るために働き続けている」「ごくろうさま」というように書いているからです。	えを深めさせる。 ・ 話し合いを通しての考えの変容を評価する。 ・ ことがらだけでなく、表現や論の展開など筆者の述べ方に着目した考えを評価し、価値付ける。 ・ 必要に応じて、その考えの根拠となる述べ方について問い、筆者を意識させる。	叙述を根拠にしながら、筆者の考えや述べ方について、自分の考えを書いている。 (教科書・ノート)
--	---	--